

## 基礎科目

### ■全学部共通

#### 学科 「国語」

・時間 60分

・学習のポイント

センター試験の出題形式を踏まえています。評論文・随筆を中心に出題します。社会・文化・歴史・芸術などの分野について、近代以降、研究者や作家などによって書かれた文章を取り上げます。基本的な漢字・語彙の問題をはじめとして、重要語・接続詞などに留意しながら主張を読み取る問題に至るまで、国語の基礎力を測ります。自分にあった問題集を選び、傍線部の表現と設問を踏まえて、本文と対照して、選択肢を吟味する練習をしてください。

・2018年度入試からの変更点

従来までの「選択式」に加えて、「記述式」問題も出題します。

2018 年度

公募制推薦入試 前期 A 日程

(2017 年 11 月 18 日実施)

「国語」

問題Ⅰ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

江戸時代の日本の科学といえば、読者もご存じのように関孝和(註1)に代表される和算が存在しており、そのレベルは驚くほど高いものに達していた。その一方で、江戸期の日本には例えばからくり人形に代表されるように、機械技術の方も非常に高い(a)スイジュン(註2)のものが存在しており、こうしてみると江戸時代の科学技術は、数学と機械技術の両面で独自の高いレベルに達していて、(1)一見すると立派に「高度な科学」が存在していたようにも思える。

しかし実はそこには一つ決定的なものが欠けていた。それは日本には西欧と違って、両者をつなぐ「物理」が存在していなかったことである。そう思っただと眺めると、当時の和算は例えば「からくり人形をこれこれの速度で動かすために何gの力を何秒間加えることが必要」などという形で応用されることは少なかったように思われる。実はこの部分が「物理」に当たるのだが、江戸の科学にはそこがすっぱり抜けていたため数学と科学技術がばらばらにしか存在できず、それゆえにそれらはずいぶん「科学」たり得なかったのである。

歴史的に眺めても、和算はせっかく高いレベルに達しておりながら、その高度な部分は機械工学や天体力学の発展に何ら貢献しておらず、結局和算は単なる知的ゲームで終わってしまったって、科学技術にほとんど(b)キヨ(註3)しないまま、日本は西欧から取り残されてしまったのである。

一方それに対して西欧では、日本と違って物理という「思想」があって、むしろそれが主役となって数学を牽引(けんいん)していた。文系の目からは物理も数学も似たようなものかもしれないが、実は数学はそれ自体では一種の言葉や道具に過ぎない。それに対して物理というものは「この宇宙はどういう仕掛けで動いていて、それを記述する言葉として数学をどう使うか」という、一種の思想や世界観である。そして単なる抽象的な数学は、その物理という思想や世界観の中で解釈されることで、初めて「科学」となるのであり、西欧では機械工学も、物理の思想が主張するそういう宇宙のメカニズムの、いわば小型の模型として発達していたと言えるのである。

つまりそこが江戸期の科学の大きなミッシング(註4)・リンクだったわけで、その意味では江戸の和算というものは、「物理をもたない数学」というものが単独ではどういう運命をたどるのかを示す、格好の世界史的な事例だと言えるだろう。

そしてそれを踏まえた上で経済数学というものを眺めると、それは多分に理系の科学の圧倒的な成功を見て、そのスピノフ(註5)の形で、使える数学部分をそのまま切り花のように持ってきた、という性格のものである。

そして経済学部ではその切り花の数学部分だけを教わるため、それを生み出す「根」といべき物理の思想的な部分は切り離されており、その点で上の話とやや似ている。そのため教わる側は、ちょうど先ほどの「数学ができて物理ができないとわかった気になれない」というのに似た精神状態に陥りがちで、経済数学がしばしば無味(c)・カンソウ(註6)な難物に見える理由の一端も、恐らくそこに起因するのである。

それを逆に考えると、本来なら経済数学もそのミッシング・リンクの部分を補えば、理解がスムーズ

ズにいくはずなのだが、(d)カンジンのその物理の部分が日本人には苦手だというのだから、困ったことになる。

ア これまでの日本人の物理に対する接し方を見てみると、どうも本格的に物理を学ぶのは苦手なのだが、その割には一種の教養として、宇宙・天体の話やその背景となる思想の話題などを聞くのはむしろ大変に好きなのである。実際に、そういう意味での理系 A のスイジュンは、他国と比べても非常に高いと言える。

だとすれば、これについて理解する一番良い方法は、むしろその背景にある話題、つまり「経済数学の歴史において物理の思想がどう作用してきたのか」を教養的な読み物としてひとまず先に吸収し、そのミッシング・リンクを埋めておくことなのではあるまいか。

恐らくこれが、経済数学を本当に理解するための最も楽な方法で、特に現在の最新のマクロ経済学の場合、(中略)「物理からのスピノフ」で生まれているという性格がさらに強いため、それを教養として理解するためには、このアプローチが最も有効のように思われるのである。

そこでこの初級編では「文系と理系の間で、経済学が数学や物理からどういう影響を受けて発達してきたか」という視点から、経済学全体を歴史的に Y 俯瞰する、というユニークな試みを行ってみたい。

さてそうやって眺めてみると、そもそもアダム・スミスに始まる近代経済学自体が、当時の物理を手本にして生まれたとさえ言えない。そしてその経済学に影響を与えた「物理の魂」というべきものは何だったかと言うと、それは何と云ってもニュートンの天体力学である。

これは(2)アダム・スミスの経済学全体に影響を与えただけに留まらない。(中略)そもそも近代西欧が本当の意味で文明として世界に立ち上がる真の契機を提供したのが、この天体力学と微積分だったのである。

それ以前の時代、例えばルネッサンス時代は、まだ西欧キリスト教世界はようやく入ってきた高度なアラビア科学の吸収に手一杯という状態で、まだ人類文明の先頭に立ってそれを前進させるといには程遠い段階にあった。そして西欧がその二番手の立場から脱する決定的な鍵となったのが、これらだったというわけである。

イ この天体力学だが、人類史的に見ても天体力学の出現は、それまで神の領域であったはずの天体の運行が、数学を使うことによって人間に全て解き明かせる、ということを示したという点でも B な意義をもっていた。それはひいては、この世界の全てを合理的な力学のメカニズムで説明しうるという、文明全体にとっての大きな(e)カクメイだったのであり、われわれの近代文明が全てその影響の上に成り立っていると云っても過言ではない。

そしてそういうつもりであらためて眺めると、アダム・スミスの経済学が天体力学などの部分に影響を受けたかは、ちよつとでも経済学を知っている人ならすぐにわかるだろう。それは言うまでもなくこの経済学の中心思想、つまり価格などが需要と供給の間で行ったり来たりを繰り返しながら自動的にバランスをとって安定する、という部分であり、この考え方がまさに、惑星や彗星などが太陽の周囲でバランスをとって、近づいたり遠ざかったりを一定周期で繰り返しながら安定した軌道を保つ、

というビジョンをヒントにしているのである。

そして経済学の教科書ではそのメカニズムは多くの場合、2本の曲線がクロスして交わっているグラフで表現される。それは言わずと知れた「需要と供給のグラフ」で、例えば価格による需給バランスの話だと、売り手である供給側のカーブは、物の値段が高い方が得なので右上がりの曲線となるが、買い手である需要側のカーブは、物の値段が高いほど損なので右下がりの曲線となる。

そして読者もご承知のように、例えば物の値段がこの均衡点から右、つまり高すぎる方にずれている場合、需給が釣り合わず売れないため、売り手側が値下げすることになり、逆に左にずれた場合も同様なので、市場内部には自動的にこの均衡点に戻そうとする力が働く。つまりこの2本の曲線の交点で、両者の損得が行ったり来たりしながら釣り合って売買が成立することになり、価格もその均衡点で決まるというわけである。

このメカニズムは惑星や彗星の場合でも基本的に同じであり、惑星などが太陽に近づいていくと、だんだん速度が増して、太陽の脇を通過する際の遠心力も強くなる。逆に太陽から遠ざかりすぎた場合には、公転スピードが遅くなって遠心力が弱まり、それによって惑星は再び太陽の方に戻っていく。つまりこの遠心力と引力のバランスが、ちょうど経済世界の需給バランスのように一種の復元力を作り出し、惑星や彗星は自動回復機構のように行ったり来たりを繰り返しながら、一定の軌道を維持し続けるわけである。

そしてニュートンの天体力学は、太陽系の全ての惑星が個々に太陽との間で、このようなメカニズムで安定した軌道を作っており、それらが集まって全体として太陽系という大きな秩序のシステムを自然に作り上げている、と主張する。

そのためこの考えを経済に移植すると、物の価格ばかりでなく労働条件や金利などでも同じことが成り立ち、<sup>(3)</sup>社会全体がこの均衡メカニズムで安定状態を作っている、というアダム・スミスの「神の手」の、市場の自動均衡メカニズムの話になるということが、読者にはわかりだろう。

(長沼伸一郎『経済数学の直観的方法 マクロ経済学編』出題の都合上、一部省略した箇所がある)

(注1) 関孝和……江戸前期の和算家(一六四〇頃～一七〇八)。

(注2) ミッシング・リンク……二種の生物間に進化的移行が認められながら、その中間形態が発見されていない状態で、間をつなぐものがない状態をいう。

(注3) スピンオフ……副産物。

(注4) マクロ経済学……一国全体の経済活動を分析する経済学。

(注5) アダム・スミス……イギリスの経済学者(一七二三～一七九〇)。

(注6) ニュートン……イギリスの物理学者(一六四二～一七二七)。

問一 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 1、(b) 2、(c) 3、(d) 4、(e) 5。

(a) スイジユン 1

- ① 教科書にジユンキヨする。
- ② ジユンジヨを守る。
- ③ 市内をジユンカンするバス。
- ④ 資金がジユンタクにある。
- ⑤ 今月もゲジユンになった。

(b) キヨ 2

- ① 中小キギョウの経営者。
- ② シンキの顧客を紹介される。
- ③ 問題はタキに渡っている。
- ④ 学生のためのキシユクシヤ。
- ⑤ ショウカキを備えつける。

(c) カンソウ 3

- ① ユウソウな舞踊に見入る。
- ② 突然の出来事にソウゼンとする。
- ③ ショウソウ感を抱く。
- ④ ケイソウ中の事案である。
- ⑤ うわさをイツソウする。

(d) カンジン 4

- ① カンケツなレポート。
- ② カンゼンチヨウアクを貫く。
- ③ 編集のシユカンを務める。
- ④ カンソンに暮らす。
- ⑤ カンゾウを悪くする。

(e) カクメイ 5

- ① カクシ的なプラン。
- ② 二者をヒカクする。
- ③ カクセイの感がある。
- ④ 組織のチュウカクを担う。
- ⑤ 水産資源のランカク。

問二 傍線部X「多分に」、Y「俯瞰する」の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、X 、Y 。

X 多分に

- ① かなりの割合で
- ② 間違いなく
- ③ おそらくは
- ④ いみじくも
- ⑤ 相当の頻度で

Y 俯瞰する

- ① 細部に至るまで事細かに注視し、見極める
- ② 目の前にあるものをじっくりと凝視し、その本質をつかむ
- ③ 高所から見下ろすかのように、全体を広く見渡す
- ④ 対象を個々の要素に切断し、その一つ一つを分析する
- ⑤ 視点を一点に固定し、そこから見えるものを正確に描写する

問三 空欄 、

を補うのに最も適当な語句を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

い。解答番号は、ア 、イ 。

ア

- ① だから
- ② しかし
- ③ そのうえ
- ④ もちろん
- ⑤ あるいは

イ

- ① たとえば
- ② もっとも
- ③ なぜなら
- ④ さて
- ⑤ つまり

問四 空欄 、

を補うのに最も適当な語句を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

い。解答番号は、A 、B 。

A

- ① リテラシー
- ② パラドックス
- ③ レトリック
- ④ メタファー
- ⑤ ヒエラルキー

B

- ① 主体的
- ② 功利的
- ③ 相対的
- ④ 倫理的
- ⑤ 画期的

問五 傍線部(1)「一見すると立派に『高度な科学』が存在していたようにも思える」とあるが、実際にはどうであったというのか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号は

12

- ① あらゆる近代科学は、その営みにおいて不可欠である「物理」というものがすっぱり抜けてしまっていたため、ついに真の意味での科学たり得なかった。
- ② 日本の科学は、江戸期以来、その骨子となるべき「物理」を欠いているため、これからも、真の意味での科学が日本に成立する可能性はなかった。
- ③ 江戸の科学には「物理」が存在しなかったために、科学技術とからくり人形を駆動させる力学とが、個々ばらばらにしか存在できなかった。
- ④ 「物理」は数学と機械技術とをつなぐ役割を担うが、江戸期の科学にはそれが欠けていたため、数学も機械技術も西欧ほどには発展しなかった。
- ⑤ 数学と科学技術とを媒介する働きを持つ「物理」が欠落していたために、江戸時代の日本の科学は、真の意味での科学とはなり得なかった。

問六 傍線部(2)「アダム・スミスの経済学」とあるが、筆者はどのような意図があつてこの話題について言及するのか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は

13

- ① 多くの者が物理という学問に苦手意識を持っているせいで、経済数学の根本に物理があることを理解できない日本の現状を批判するという意図。
- ② 経済数学の歴史において物理の思想が及ぼした影響を話題とすることで、経済数学を難解であると考える多くの日本人にも、それをスムーズに理解させようという意図。
- ③ 西欧においては、科学技術と数学とを結びつける物理が確立していたために、経済学に関しても、その初期から高度な理論が構築されていたことを示すという意図。
- ④ アダム・スミスの経済学が近代西欧の学問のモデルとして、天体力学や微積分など、他の多くの学問に様々な影響を与えた事実を明らかにするという意図。
- ⑤ ニュートンの天体力学とアダム・スミスの経済学との対照性を明示することで、日本人が苦手とする経済数学を、少しでも理解しやすいものにするという意図。

問七 傍線部③「社会全体がこの均衡メカニズムで安定状態を作っている」とあるが、ここでいう

「均衡メカニズム」の例として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は

14。

- ① A社は市場における自社製品のシェアをB社から奪おうとして、大胆な値下げ戦略に打って出た。
- ② インフレに陥った某国では、一杯のコーヒーを飲むためにトランク一杯分のお札を必要とした。
- ③ 雇用者と従業員の思惑がついに妥協点を見出し、B社の最低賃金は、適切な金額に落ち着いた。
- ④ 景気後退が長期化する中、預金者の希望に反し、金融機関が預金金利を上げることがはまらずに期待できない。
- ⑤ 市場における独占的な立場にあるC社とD社は、商品の価格について協定を結ぶことで独占を強化した。

問八 本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 15。

- ① 物理という思想や世界観の中で解釈されることがなければ、数学などは一種の抽象的な言葉や道具に過ぎない。
- ② 日本人は、宇宙や天体についての話題を敬遠することが多いが、思想にまつわる教養に関しては好む人間が多い。
- ③ マクロ経済学は、物理からのスピノフに過ぎないので、経済学においては二義的な価値しか持たない。
- ④ 長らく二番手に甘んじていた西欧も、ルネッサンス時代以降、高度な科学で人類を先導すべき段階に入った。
- ⑤ 世界のすべてを合理的に説明しようとする天体力学的思考を乗り越えたところに、現代文明は成り立つ。

## 問題Ⅱ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「人は一人では生きていけない」

皆さんは先生やご両親から、よくこうした言葉を聞かされたことはありませんか。テレビドラマなどでもこんなセリフをよく耳にします。「たしかにそうだな、人間一人では生きていけない」、この言葉に素直に納得する人もいるかもしれませんが。でも反対に「ホントにそうかな。なんかしっくりこない。人はじつは一人でだって十分生きていけるんじゃないかな」と思う人だっているでしょう。皆さんはどう思われるでしょうか。

この問いに関する答えの傾向としては、こんな予想が立てられます。年齢が上になればなるほど、そして暮らしている場所が地方であればあるほど、「人は一人では生きていられない」と答える可能性が高い。そして若い年代でしかも都会暮らしであればあるほど、「案外人間は一人で生きていけるのではないか」と答える割合が多いのではないかと。ア 都会暮らしの若者すべてが「一人でも生きていられる」と考えるわけではないでしょう。しかし全体的にはこうした傾向が見られるのではないかと思われれます。

① 人と人との（つながり）の問題を考える最初の出発点として、人は本当に一人では生きられないのか、それとも、まあそれなりに生きていけるのかといった問いを立ててみましょう。かつての日本には「ムラ社会」という言葉がよく表現されるような地域共同体が存在していました。

「ご近所の人の顔と名前はぜんぶわかる」といった集落がそれですね。これは、何も地方の農村や漁村だけに限ったことでなく、東京のような都会にだってあったのです。『ALWAYS 三丁目の夕日』——映画ですから描き方にはフィクションの要素も多分に入っているとはいえ——のように、近所に住む住人同士の関係が非常に濃密な「ご町内」が、昭和四〇年くらいまでの日本には確かにありました。

そんな「ムラ社会」が確固として存在した昔であれば、これは明らかに「一人では生きていけない」ということは A とした事実でした。

② により、食料や衣類をはじめ、生活に必要な物資を（a）チヨウタツするためにも、仕事に就くにしても、いろいろな人たちの手を借りなければいけなかったからです。こうした、物理的に一人では生活できない時代は長く続きました。だから村の交際から締め出されてしまう「村八分」というペナルティは、わりと最近まで X 死活問題だったわけです。

ところが近代社会になってきて、（b）カヘイ（＝お金）というものが、より生活を媒介する手段として（c）シントウしていくと、極端な話お金さえあれば、生きるために必要なサービスはだいたい享受できるようになりました。

イ、今はコンビニなど二十四時間営業の店も増え、思い立った時にいつでも生活必需品は手に入られるし、ネットショッピングと宅配を使えば、部屋から一歩も出ずにあらゆるサービスを受

けることも可能になっています。働くにしても、仕事の種類によってはメールとファックスで全部済んでしまう場合だってあります。

③

ある意味で、「人は一人では生きていけない」というこれまでの前提がもはや成立しない状況は現実には生じているといえるのです。

さて、こうした現代的状況を目の前にして私が言いたいのは、「だから、一人でも生きていけるんだよ」ということではありません。みんなバラバラに自分の欲望のおもむくままに勝手に生きていきましようといったことでもありません。「一人でも生きていくことができってしまう社会だから、人とつながることが昔より複雑で難しいのは当たり前だし、人とのつながりが本当の意味で大切になってきている」ということが言いたいのです。つながりの問題は、こうした観点から考え直したほうがよさそうです。

今の私たちは、お金さえあれば一人でも生きていける社会に生きています。

でも、普通の人間の直感として「そうは言っても、一人はさびしいな」という感覚がありますね。本当に世捨て人のような生活が理想だという人もいないわけではありませんが、たいてい、仮にどんなに孤独癖の強い人でも、まったくの一人ぼっちではさびしいと感じるものです。

④

ではなぜ一人ではさびしいのでしょうか。やはり親しい人、心から安心できる人と交流していたい、誰かとつながりを保ちたい。そのことが、人間の幸せのひとつの大きな柱を作っているからです。だからほとんどの人が友だちがほしいし、家庭の幸せを求めているわけです。

あの人と付き合うと便利だとか便利じゃないとか、得だとか損だとかいった、そういった利得の側面、面で人がつながっている面もたしかにあるけれども、しかし<sup>(1)</sup> 人と人とのつながりはそれだけではないわけです。

だから、「人は一人でも生きていけるか」という問いに対する私の答えは、「現代社会において基本的に人間は経済的条件と身体的条件がそろえば、一人で生きていくことも不可能ではない。しかし、大丈夫、一人で生きていると思いついていても、人はどこかで必ず他の人々とのつながりを求めがちなことになるだろう」です。

誰でも、「人と親しくなりたい」、「人と人とのつながりの中で幸せを感じたい」と願うものです。本質的に人間は、つながりを求めるものなのです。

しかし、現代は、それを求めることによってかえって傷ついたり、人を追い詰めたりするような状況に陥ることがあります。この本を手にとった皆さんだって、少なからずそんな経験をしたことはあるでしょう。

どうしてそうなってしまったのでしょうか。

一つには、「親しさを求める作法」が、I からののだと私は考えています。

じつはご年配の方はもちろん、意外なことに若い人の中にも、その「古い作法」を引きずっている人は結構多いのです。むしろ若い人のほうが、「古い作法」に強く<sup>(d)</sup>ジュンスイに従っている傾向があるかもしれません。

ある程度社会経験を重ねれば、Bとかわせることも、若い人は真正面から受け止めてしまいがちです。中学、高校などの部活動における先輩―後輩の関係の作り方などをみてみると、そう感じることがあります。一歳か二歳しか違わないのに、かなり厳しい上下の関係を守っている場合がありますね。だから辛いし、ときとして爆発してしまうこともあるのではないのでしょうか。

私たちは<sup>(2)</sup>ある種の共同体的なつながりや関係の中で培ってきた、とりわけ日本人的な親しさの作法をお手本にしています。そこには確かに、損得を超えて人を全面的に包み込むような温かみや情愛の深さを受け継いでいる面もあるかもしれません。だから<sup>Y</sup>無下に否定してしまうわけにはいかないという側面が確かにあります。しかし、みんな同じような職業や生活形態を前提とするムラ的な共同体の作法では、もはや親しさを維持することはできないほど、私たちの置かれている状況は以前とはすっかり変わってしまったと考えた方がいい。ムラ的な伝統的作法では、家庭や学校や職場において、さまざまに多様な生活形態や価値観をもった人びとが隣り合って暮らしている<sup>いまの時代</sup>にフィットしない面が、いろいろ出てきてしまっているのです。そろそろ、同質性を前提とする共同体の作法から、自覚的に脱却しなければならぬ時期だと思えます。このことは、これを読んでくれる若い人たちにもあてはまるだろうし、何よりもいまの学校の先生や、親御さんにも、ぜひご理解をして頂きたい大事な側面だと私は考えています。

⑤

基本的な発想として、共同体的な凝集された親しさという関係から離れて、もう少し人と人の距離感を丁寧に見つめ直したり、気の合わない人とでも一緒にいる作法というものをきちんと考えたほうがよいと思うのです。人と人とのつながりについて、基本的な発想の<sup>(e)</sup>テンカンを試みてみようと思うのです。そのことが本書の重要なテーマとなっているのです。

〔菅野仁『友だち幻想 人と人の（つながり）を考える』出題の都合上、一部省略した箇所がある〕

〔注1〕 ALWAYS 三丁目の夕日……西岸良平の漫画『三丁目の夕日』を原作とする映画。昭和三十年代の東京の下町が舞台となっている。二〇〇五年公開。

問一 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 16、(b) 17、(c) 18、(d) 19、(e) 20。

(a) チョウタツ

16

- ① 教科書にラクチョウがみつかる。
- ② 生活チョウド品をそろえる。
- ③ 景気回復のキツチヨウ。
- ④ チョウジを述べる。
- ⑤ チョウサンボシの政策。

(b) カヘイ

17

- ① 犯罪をインペイする。
- ② 長年のビヨウヘイが露呈する。
- ③ 二つのものをヘイヨウする。
- ④ シッペイに苦しむ。
- ⑤ ゾウヘイ局に勤務する。

(c) シントウ

18

- ① トウメイなガラス。
- ② 入場ゲートにサットウする。
- ③ タイトウの立場で話し合う。
- ④ アイトウの意を表する。
- ⑤ 今後の方針をケントウする。

(d) ジュンスイ

19

- ① 率先スイハンする。
- ② ブスイなふるまい。
- ③ 一国のスイボウを記す。
- ④ 会社のスイトウ管理。
- ⑤ 美しい音楽にトウスイする。

(e) テンカン

20

- ① 大使を本国にシヨウカンする。
- ② ゴカンセイのある機種。
- ③ カンイ書留で送る。
- ④ カンキユウをつけた投球。
- ⑤ 他国にカンシヨウする。

問二 空欄 ア、イ を補うのに最も適当な語句を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、ア 21、イ 22。

- ア 21
- ① なぜなら
  - ② もちろん
  - ③ まるで
  - ④ もともと
  - ⑤ はたして

- イ 22
- ① ただし
  - ② えてして
  - ③ ひとまず
  - ④ くしくも
  - ⑤ とりわけ

問三 本文中において以下の文章が挿入されるべき箇所を、空欄 ①、②、③、④、⑤の中から選びなさい。解答番号は 23。

このように、一人で生きていても昔のように困ることはありません。生き方としては、「誰とも付き合わず、一人で生きる」ことも選択可能なのです。

問四 空欄 A、B を補うのに最も適当な語句を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、A 24、B 25。

- A 24
- ① 漠然
  - ② 积然
  - ③ 巖然
  - ④ 陶然
  - ⑤ 敢然

- B 25
- ① のらりくらり
  - ② ずぶずぶ
  - ③ ざっくり
  - ④ のんびんだらり
  - ⑤ ずんぐり

問五 傍線部X「死活問題」、Y「無下に」の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、X 26、Y 27。

X 死活問題

26

- ① 現実的な問題
- ② 人道に関わる問題
- ③ 重大な問題
- ④ 普遍的な問題
- ⑤ 解決不可能な問題

Y 無下に

27

- ① すげなく
- ② 所在なく
- ③ 如才なく
- ④ 性懲りもなく
- ⑤ てらいもなく

問六 傍線部(1)「人と人とのつながりはそれだけではない」とあるが、どういうことか。最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 28。

- ① あの人と付き合いると便利だとか便利ではないなどという理由で人とつながることを求めるのは、まったくの利己的な行為であり、許されるものではないということ。
- ② 人と人がつながりを求めるのは、必ずしも損得勘定に基づくものとは限らず、誰かとのつながりが人間の幸福の根本を為しているからであるということ。
- ③ 人は一人でいることに耐えられず、自らの幸せのために誰かとつながることを願うのであり、利得の観点から他者と付き合い合うことを求めるなどありえないということ。
- ④ 人は誰であれ必ず、一人ぼっちを寂しく感じてしまう生き物であり、したがって誰かとつながりを保つことだけが、人間の幸せの唯一の柱となるということ。
- ⑤ 誰かとのつながりを保っている状態を構築できるのであるならば、経済的条件と身体的条件とが許す限り、人は世捨て人を装って生きていくことも可能であるということ。

問七 本文中の空欄

I

から一つ選びなさい。解答番号は 29。

- ① 少なからず「独善的」な欲望に基づくものである
- ② 自らを取り囲む他者にとっては「わずらわしい」ものである
- ③ 現代では「経済的」な次元においてしか成立しえない
- ④ 地域共同体的なつながりに対する徹底的な拒絶感を前提としている
- ⑤ いまだに「ムラ社会」の時代の伝統的な考え方を引きずっている

問八 傍線部(2)「ある種の共同体的なつながりや関係の中で培ってきた、とりわけ日本人的な親しさの作法」とあるが、このような「作法」に対する筆者の考えとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 30。

- ① いまの時代にはそぐわない考え方であり、きっぱりと決別しなければ、いつまでも問題は解決しない。
- ② 損得を超えて人を全面的に包み込むような温かみや情愛の深さを受け継ぐ、すばらしい考え方である。
- ③ 現代においては時代錯誤な考えであり、私たちはより以前の伝統的な価値観を学ばなくてはいけない。
- ④ 現代には適用しえないような側面もあるが、多様な人々を受容するその寛容なありかたは評価できる。
- ⑤ 評価すべきところは評価する必要があるが、そのままに現代社会に通用するような考えとは言えない。

問九 本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 31。

- ① 地方に暮らし、かつ年齢が上になればなるほど、「人間は一人で生きていけるのではないか」と考える可能性が高くなる。
- ② 近代社会以降、人は一人でも生きていけるようになったのだから、他者とつながることの価値は低くなったと言える。
- ③ 人とのつながりを求めてしまうという人間の本能は、古来から、自己を傷つけ、他者を追い詰める要因となってきた。
- ④ 厳しい上下関係を守るという「古い作法」は、とりわけ年配の世代において顕著に見られる考えであると言える。
- ⑤ 我々に大切なのは、異質な他者との距離感や共存を考え、人とのつながりについて、新たな作法を模索することである。

## 2018年度 公募制推薦入試前期A日程 「国語」 解答例

大問	小問	解答番号	正解
問題 I	問一	1	①
		2	④
		3	③
		4	⑤
		5	①
	問二	6	①
		7	③
	問三	8	②
		9	④
	問四	10	①
		11	⑤
	問五	12	⑤
	問六	13	②
	問七	14	③
	問八	15	①

『経済数学の直観的方法 マクロ経済学編』長沼伸一郎

大問	小問	解答番号	正解
問題 II	問一	16	②
		17	⑤
		18	①
		19	②
		20	②
	問二	21	②
		22	⑤
	問三	23	③
	問四	24	③
		25	①

問五	26	③
	27	①
問六	28	②
問七	29	⑤
問八	30	⑤
問九	31	⑤

『友だち幻想 人と人の〈つながり〉を考える』菅野仁

2018 年度  
一般入試 前期 A 日程  
(2018 年 2 月 5 日実施)

「国語」

## 問題Ⅰ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

日本をどうみるか。それは、世界をどうみるかということと密接につながっている。現代の世界という空間のなかで、日本がしめている位置の、正確な座標を決定すること。それが当面の課題である。空間ということばを、物理学のあるいは数理<sup>(注1)</sup>地理学的な意味でつかっているのではない。そういう意味でなら、日本の座標なんて、自明のことだ。北緯何度に東経何度。ぴたりときまってしまう。議論の余地はない。

日本は東洋の国である、といういいかたは、日本の位置についてのひとつの座標的な表示法とみてよい。そこでは、日本は東洋諸国のなかのひとつとしてグルーピングされ、西洋諸国との対比において、その位置がかたられている。しかもそれは、単なる北緯何度、東経何度の指定以上のものをふくんでいる。東洋といい、西洋というのは、もともと文化をかんがえにいられたところの、歴史的な観念だからである。日本は、歴史的・文化的な空間において、座標をあたえられたのである。

しかし、<sup>(1)</sup>日本は東洋の国である、という指定では、いかにも内容が不十分である。近代日本の直面したおおくの問題を、東洋と西洋、あるいは東洋文化と西洋文化のからみあいとしてとらえようというかんがえかたが、以前からいくつもでてきているけれど、わたしは<sup>(a)</sup>サイヨウしない。そういう座標軸の設定は、すこし単純すぎるとおもうからだ。第一に、日本は東洋の一国であり、日本文化は東洋文化の一種であるとしても、それはただ、類別をあたえただけで、類別をはかる目もりが用意されていない。日本が東洋一般でない以上は、日本と日本以外の東洋とがどのようなことになるかが、かたられなければならない。よくしらべてみたら、案外ひどくちがうかもしれない。

第二にこれは決定的なことだが、世界を東洋と西洋とに類別するということが、そもそもナンセンスだ。頭のなかでかんがえると、東洋と西洋との比較というと、いかにもきれいに世界を論じたような気になるが、じつさいは、東洋でも西洋でもない部分を、わすれているだけである。ア、パキスタンから北アフリカ一めんにかけて展開する広大な地域、そこにすむ数億の人びと。いわゆるイスラーム世界である。これは東洋か西洋か。西ヨーロッパの人たちは、<sup>(注2)</sup>それをオリエントとよぶかもしれないが、わたしたちはそれを、われわれとおなじ意味での東洋とはかんがえない。じつさいにいつてみると、いろいろな要素について、多分に西洋くさいものを、わたしたちはかぎつける。しかし、これをも西洋だといったら、西ヨーロッパの人たちはびっくりするだろう。

東洋とか西洋とかいうことばは、漠然たる位置と内容をあらわすには、たいへん便利なことばだけれど、すこし精密な議論をたてようとする、もう役にたたない。そのような表示法では、世界における日本の位置表示はできないとおもう。

もともと、日本の文化を形づくっていたひとつの要素は、これはまず、まちがいもなく東洋的なものだ。漠然の便利さにまけて、東洋的などということばをつかってしまったが、もうすこし精密に、極東的といってもよい。ひじょうにおおくの要素を、アジア大陸の東のはしの諸地域と、共有している。日本独特のものもすくなくないが、その<sup>(b)</sup>キゲンをたどってゆくと、たいていはやはり大陸にもとがある。<sup>(注3)</sup>トインビー氏が、日本文明をもって、中国を中心とする極東文明の分派とみたこと

は、むりではなかった。ただ、仏教関係および美術関係の要素は、もつと西のほうからきている。それは、インドから、中央アジアをとおってはるばるとわたってきた。

これだけなら、日本の位置の指定はまだやさしかった。東洋のなかで、いつそう精密に、日本以外のものとの種差を指定したらたたりはすだ。ところが、日本の場合にかぎってやっかいな事情があった。現代日本文化を形づくっている諸要素のなかには、西欧伝来のものが **A** 程度にはいつている。明治以来の、日本近代化にもなつて、そういう要素が、**B** とながれこんだ。それをもはや、無視することはできない。(2) その点をどうあつかうか、そこが、現代日本文化論の、かなめの点になるところだとおもう。

変化は全然表面的であつて、本質においては、西欧的なものは、なにひとつ影響をおよぼさなかつた、というかんがえもある。それはしかし、**X** 強弁だ。そんなことはない。現代の日本文化は明治以前の日本文化と、あきらかにちがつている。

また、トインビー氏は、日本を改宗者であるとみなしている。極東文明から西欧文明に改宗したのだという。これもすこし強弁だ。日本にはまだ、非西欧的な文化要素がおびただしくある。改宗して過去の信仰の名ごりの神棚をたたきわるところまではいつていない。

加藤周一氏は、**I** 文化だといった。これは、たいへんよいいかただとおもう。日本文化は、西洋文化の輸入品で枝葉が接木つぎきされている、というようなものではない。それは、根本からの **I** になつている、という。

これはみごとな、ひとつの座標表示である。わたしは、そのかんがえをおもしろいとおもう。**I**、それではまだ、ほかの国とくらべての、日本の特徴がはつきりしない。中国やインドとは、たいへんちがうようだというけれど、どちらがうのか。かれらの文化は、どうして **I** 化しないのだろうか。西洋文化の流入の歴史からいえば、かれらこそ、もつと **I** 化していてもよさそうなものなのに。

(3) いままでのかんがえかたは、みんな文化の由来をもつて日本の位置表示をおこなおうとしていた。あるいは、文化を形づくるそれぞれの要素の系図をしめすことによつて、現在の状況をしめそうとしていた。加藤氏の **I** 文化論も、その名がそのまましめすように、(c) ケットウの問題として文化をとりあげている。わたしはここで、文化の機能論的な見かたをみちびきいれたほうが、話が、いつそうはつきりするとおもう。それぞれの文化要素が、どのようにくみあわさり、どのようにはたらいているか、ということである。

それは、素材の由来の問題とは全然関係がない。建築にたとえていえば、個々の材木が、吉野杉であるか米松べいまつであるかをいうのは、系譜論の立場だ。できあがつた建築が、住宅であるか学校であるかをいうのは、機能論の立場である。それは、文化の素材の問題ではなくて、文化のデザインの問題であり、いつそうはつきりいえば、生活主体、すなわち文化にない手たる共同体の、生活様式の問題なのである。

べつなたとえでいうと、こうなる。ひとつの共同体——たとえば国民——のもつ文化を、箱にたとえよう。文化の素材の系譜をいうのは、箱の色を論ずるのにあたる。機能論は、箱のおおきさと形を

問題にする。また、べつなたとえでいうと、こうなる。共同体のもつ文化を、つみ木にたとえよう。ひとつひとつのつみ木の色は、いろいろあるかもしれない。しかし、個々の木片の色は、つみあげた構築物の形とおおきさには関係はない。

現代の日本文化を要素に分解して、そのおのおのの系譜をあきらかにして、分類しても、あまりか  
い、のないことだ。それでは、日本文化の特徴は、はっきりつかめない。

では、文化の素材の問題は Y 棚あげにして、現代日本の文化は、全体としてどういうデザインで設計されているか、日本人の生活様式は、どういう特徴をもっているかをとおう。それは、じつにかんたんなことだが、高度の文明生活ということだとおもう。トインビー流の、何々文明というのとまぎらわしければ、とくに近代文明とよんでもよい。この場合、くりかえしいうけれど、そのなかの材料がどこからきたかは問題ではない。材料のくみあげかたの問題である。現代の日本文化は、雑種か純系かはしばらくおくとして、高度の近代文明のひとつであることはまちがいない。

戦前は文明国ということばをよくきいた。戦後はもっぱら文化国で、文明をいわなくなったのはどうしたことだろうか。戦争にまけて、鼻べちやになったので、文明国の名を返上したのだろうか。しかし日本は、戦争にまけても、依然として高度の文明国である。ある部分では、戦前より文明の度がすすんでさえいる。

いちいち文明の特徴をあげるまでもないが、たとえば、巨大な工業力である。それから、全国にはりめぐらされた (d) ボウダイな交通通信網。完備した行政組織、教育制度。教育の普及、豊富な物資、生活水準のたかさ。たかい平均年齢、ひくい死亡率。発達した学問、芸術。

わたしはなにも、日本の現状をもつて理想的な状態だというつもりはすこしもない。それどころか、日ごろは (e) ケツカンばかり目について、ぶうぶう不平をならしている。マイクロー・ウエーヴ網<sup>(注5)</sup>ができれば、市内電話の発達のわるさはどうだ。鉄道はあっても、自動車道路はこれでも道か。化学工業、造船、光学機械はたいしたものでも、工作機械はだめ。数百の大学と、わずかな研究費。たしかにこういうデコボコはあるにしても、

II

(梅棹忠夫『文明の生態史観 ほか』)

(注1) 数理地理学……天体としての地球を研究する、かつての学問分野。

(注2) オリエント……西欧から見た、東方の諸地域。

(注3) トインビー……イギリスの歴史家(一八八九～一九七五)。

(注4) 加藤周一……評論家、詩人。戦後日本を代表する知識人の一人(一九一九～二〇〇八)。

(注5) マイクロ・ウエーヴ……電波の一種。電話、テレビの中継などに用いる。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 1、(b) 2、(c) 3、(d) 4、(e) 5。

(a) サイヨウ

1

- ① 鉱石をサイクツする。
- ② 一国をサイリヨウする。
- ③ イサイを放つ芸術家。
- ④ 損得がソウサイされる。
- ⑤ 難敵をフンサイする。

(b) キゲン

2

- ① ここで会うとはキグウだ。
- ② 成功のキセキをたどる。
- ③ キジヨウの空論。
- ④ キシ回生の策を立てる。
- ⑤ 実力をいかになくハツキする。

(c) ケットウ

3

- ① トウソツのとれた軍隊。
- ② 突然ソツトウする。
- ③ トウハを越えた連携。
- ④ トウトツな発言。
- ⑤ 師よりクントウを受ける。

(d) ボウダイ

4

- ① ボウセキ工場に勤める。
- ② ボウビを固める。
- ③ ボウリヤクを見破る。
- ④ ボウガイの出世を喜ぶ。
- ⑤ 体積がボウチヨウする。

(e) ケツカン

5

- ① 悪天候の中、登山をカンコウする。
- ② 両者の意見をカンアンする。
- ③ 前線基地がカンラクする。
- ④ 失敗から何を学ぶかがカンヨウだ。
- ⑤ 近代社会のコンカンをなす制度。

問2 空欄 、を補うのに最も適当な語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、 、 。

ア  ① また ② もしくは ③ それゆえ ④ たとえば ⑤ ところで

イ  ① なぜなら ② それとも ③ いわば ④ しかし ⑤ そこで

問3 空欄 、を補うのに最も適当な語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、 、 。

A  ① けたたましい ② おびたましい ③ かしがましい ④ さもしい

⑤ かんばしい

B  ① こんこん ② しずしず ③ とうとう ④ りんりん

⑤ さんさん

問4 傍線部X「強弁」、Y「棚あげにして」の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ

一つずつ選びなさい。解答番号は、X 、Y 。

X 強弁

- ① 確信をもって強く言い張ること
- ② 苦し紛れの言い逃れをすること
- ③ 暴力的に相手を従わせること
- ④ 相手を巧みに言い伏せること
- ⑤ 無理な理屈をつけて主張すること

Y 棚あげにして

- ① これ以降、完全に無視して
- ② 見なかったことにして
- ③ 大事な議題と位置付けて
- ④ 処理することが不可能と判断して
- ⑤ 解決をいったん先延ばしにして

問5 傍線部(1)「日本は東洋の国である、という指定では、いかにも内容が不十分である」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は

12。

- ① 東洋文化と西洋文化のからみあいから近代日本の問題を分析するという観点は、以前から多くの人々によって唱えられる考えであり、新たな視野を与えてくれる可能性は低いから。
- ② 現実の世界には東洋でも西洋でもない部分が認められる以上、世界を東洋と西洋に二分する思考法には、ある種のイデオロギー的な圧力が働いている可能性が高いから。
- ③ 西ヨーロッパの人にとってみれば西洋であるが、日本人には同胞として認識されるイスラームのような文化は、東洋と西洋という二分法が万能ではないことを証明してしまいうから。
- ④ 日本は東洋文化の一種ではあるが、日本が「東洋一般」ではありえない以上、実際には東洋という概念と日本の実情との間にあからさまな差異があることは決定的であるから。
- ⑤ 日本と日本以外の東洋との比較分析がなされず、また、現実には東洋でも西洋でもない領域が存在する以上、東洋という概念で日本を定義することは思慮が足りないといえるから。

問6 傍線部(2)「その点をどうあつかうか」とあるが、それに対する答えとして不適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は

13。

- ① 近代日本文化における西欧的要素の受容は現象の皮相に過ぎないということを忘れてはならない。
- ② 日本が完全に極東文明から西洋化したという考えにとらわれないように気をつけるべきである。
- ③ 西欧伝来の要素が現代日本文化を形づくる諸要素のなかに存在することから目を背けてはならない。
- ④ 現代の日本文化と明治以前の日本文化との間には明白な差異があるという事実をしっかりと意識すべきである。
- ⑤ 日本にはいまだ非西欧的な文化要素が多く存在するという事実にも目を向けなくてはならない。

問7 本文中の空欄 I には、すべて同じ語が入る。空欄を補うのに最も適当な語を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は

14。

- ① 空洞
- ② 仮想
- ③ 雑種
- ④ 実存
- ⑤ 純血

問8 傍線部(3)「いままでのかんがえかたは、みんな文化の由来をもって日本の位置表示をおこなうとしていた」とあるが、では、筆者はどのような観点から「日本の位置表示」を考えていくべきであると考えerのか。最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 15。

- ① 芸術などの高尚な文化領域ではなく、生活様式という身近な文脈から、日本人の文化の系譜を考えていくべきである。
- ② 日本文化を形成する個々の文化要素が、総体としてどのように組み上げられているのかという点に留意するべきである。
- ③ 文化を構成する個々の要素を分析することで、現代の日本文化の機能的有効性を証明するべきである。
- ④ 現代の日本文化の総体を個々の文化要素に分解、分類し、それぞれが有する機能論的な違いにこそ着目していくべきだ。
- ⑤ 文化の担い手たる共同体の生活様式が、どのような出自から生じたものであるかということに目を向けるべきである。

問9 本文中の空欄 II に当てはまる表現として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 16。

- ① 巨視的に考えるなら、それでも現代の日本が高度な文化を体現しているという事実は
- ② やはり戦前と比べてみれば、日本が豊かな時代を迎えているという現実
- ③ 大雑把にとらえるならば、戦後の日本における文明の程度が徐々に発展していることは
- ④ 全体としてみれば、やはり日本人の生活様式は、高度の文明生活であることは
- ⑤ それでも日本人の生活レベルが、諸外国の現状とは対照的に破格の次元にあることは

## 問題Ⅱ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

保守主義とは何であろうか。二一世紀の今日、保守主義を論じることにとりだけの意味があるのだろうか。

なるほど、言葉としての「保守」や「保守主義」を目にしたたり、耳にしたりする機会は少なくない。政治的立場を論じる場合、依然として、「保守」と「リベラル」(もしくは「保守」と「革新」という対立軸が用いられるし、政治家に限らず、自らを「保守」と自認する人も多い)。

ア、それでは「保守」とは何かとなると、実はかなり怪しい。男女平等や A フリー(性役割をめぐる固定的通念からの自由を求めること)の思想に批判的な人々を指すこともあれば、自国を愛し、外国人に対して(a)ケイカイ的な態度を意味することもある。時にアメリカでのように、「小さな政府」を目指す立場を「保守」と呼ぶことさえある。結局のところ「保守」といっても、「自分はりべラル(あるいは「左翼」)ではない」という、(1)消極的な意味合いしかもたないのかもしれない。

イ、「保守」もしくは「保守主義」について、共通の理解や定義のようなものがあるのだろうか。それとも、ただ、それぞれの人が好きなように使っているだけの言葉なのだろうか。

明確な定義もなく、人によってまちまちに使われているにもかかわらず、思わず人がそれを口にしてしまう言葉、そんな言葉をしばしば、「バズワード (buzzword)」や「プラスチック・ワード (plastic word)」という。こういった言葉は曖昧だけに、むしろ何か意味があるように聞こえてしまう。あるいは「保守主義」もまた、現代における「バズワード」や「プラスチック・ワード」の一つなのだろうか。

かつて、第二次世界大戦で英国をシユドウした(2)首相のウィンストン・チャーチルは、次のような言葉を口にしたという。「二〇歳のときにリベラルでないなら、情熱が足りない。四〇歳のときに保守主義者でないなら、思慮が足りない」(If you are not a liberal at twenty, you have no heart. If you are not a conservative at forty, you have no brain)』

若き日に自由や平等の理念に心動かされ、理想主義的になることが一度もないとすれば、それは感情の欠如である。かといって、いい歳とくになっても抽象的な理想を追い求めるばかりで現実を理解しようとしもないのも、理性の欠如といわざるをえない、というわけだ。実をいうと、この言葉にはさまざまなバージョンがあり、いろいろな人が似たような言葉を残している。「リベラル」の代わりに「社会主義者」などを入れる場合もあるし、年齢についても微妙な違いがある。

ともあれ、かつてであれば、「保守主義」とは、さまざまな人生経験を経た、それなりの年齢に達した人間の分別ある思想、というニュアンスがあった。逆に、若者であれば、「リベラル」であったり、「社会主義者」であったりするものが当然という含意も存在したのだろう。しかしながら、現在では、このような「思想の年齢モデル」は崩壊してしまったようだ。このことが、「保守主義」をめぐる曖昧さを加速しているように思われてならない。

大きいのは、(3)「進歩」という理念の後退かもしれない。

かつて間違いない、人々が「進歩」を信じていた時代があった。昨日より今日、今日より明日と、社会はより良いものになっている。もちろんつねに前進とは限らない。時に立ち止まったり、逆戻りしたりすることもあるだろう。とはいえ、長い目で見れば、個人や社会、そして人類全体は、前に向かって後戻りすることなく進んでいる。それはあえていえば、技術や科学の前進であり、経済や生活条件の改善であり、さらには自由や民主主義の発展である。

このような信念を多くの人が共有していた時代に有力だったのは、進歩主義の思想であった。社会が「進歩」に向けて前進することは良いことであるし、未来には何かしらの理想の実現が待っている。しばしばその理想は抽象的な理念として捉えられ、そのような理念に基づく現実世界の変革が肯定的に語られた。

もちろん、このような「進歩」に疑問をもつ人がいなかったわけではない。(中略) 進歩主義には生誕時から、それを批判する立場、すなわち保守主義というライバルが存在した。

仮に人間社会は本当に「進歩」しているとしても、ただ「進歩」のスピードを速めればいいというわけではない。急速な「進歩」、さらには「革命」によって失われるものもある。いや、むしろその方が大きいだろう。社会は過去からの連続性の上に、少しずつ進んでいくべきである。保守主義の思想は、楽天的な進歩主義を批判するものとして生まれ、発展していった。

近代とはいわば、このような進歩主義と保守主義との対抗関係を軸に展開した時代ともいえる。そして、その場合に重要なのは、この対抗関係のなかで B を握ったのが、つねに進歩主義であったということである。進歩主義があつてこそ保守主義もまた意味をもつのであつて、その逆ではない。進歩主義が有力であればあるほど、それを批判する保守主義もまた存在意義をもったのである。

ところが今日、「進歩」の理念は、急速に失われつつある。経済や生活条件の改善は見えにくくなり、環境をはじめ、失ったものも大きい。原子力や遺伝子<sup>(c)</sup>、ソウサなど、技術や科学の前進が手放しで讃えられるわけでもない。何より、単線的な歴史の発展図式は多くの人々にとって、受け入れがたいものになっている。人類が「自由」や「民主主義」に向かつて進んでいると、どうして言い切れようか。現代人の一般的感覚を言い表せば、こんなところに落ち着くのではなからうか。

結果として、「進歩」の理念に基づく進歩主義の X 旗色は悪く、逆説的に保守主義もまた、その位置づけが揺らいでいる。進歩主義というライバルを失った結果、保守主義もまた迷走を始めているのである。

(d) ポウトウで指摘した「保守主義」をめぐる理解の多様性もまた、その現れではなからうか。「保守」を自認する人の多くは、「リベラル」や「左翼」について Y 恣意的なイメージを描き、それを わら人形のようにしてたたくことで、自らの「保守」を正当化する。しかしながら、多くの場合、それは想像上の仮想敵を相手にした空回りに過ぎないようにも見える。

関連して、保守主義はもはや「大人」の思想とはいえなくなっている。「若者の保守化」が語られて久しいが(もつとも、若者が本当に「保守」化しているのかについては議論がある)、「分別」に欠けた(あるいは、「若々しい」)高齢の保守主義者も多い。そもそも人間の「成熟」を論じにくい時代である。

もし「保守主義」という言葉を、今日なお意味あるものとして使うとするなら、この言葉の来歴を  
(e)フまえ、現代的な再定義をすることが不可欠であろう。その際には、保守主義をより開かれたもの  
として捉え直すことが不可欠になる。

保守主義とは何なのか、あらためて考えてみたい。

(宇野重規『保守主義とは何か』出題の都合上、一部省略した箇所がある)

(注) 小さな政府……政府による経済政策や社会政策への介入を縮小し、民間の活力を促進しようとする立場。国民に自己責任を強要する考え方であるとして批判されることもある。新自由主義。ネオリベリズム。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 17、(b) 18、(c) 19、(d) 20、(e) 21。

(a) ケイカイ 17

- ① ヤケイ国家への後退。
- ② 消費のケイコウを分析する。
- ③ ケイバツを取り決める。
- ④ 神によるケイジ。
- ⑤ ケイヤクが切れる。

(b) シュドウ 18

- ① インドウを渡す。
- ② ドウガンの少年。
- ③ ホンドウを参拝する。
- ④ ドウコウが開く。
- ⑤ ドウタイの長い犬。

(c) ソウサ 19

- ① 天下ムソウの武人。
- ② シソウ堅固な人。
- ③ 悪のソウクツ。
- ④ 意見をソウジヨウする。
- ⑤ ソウネンの男性。

(d) ボウトウ 20

- ① タボウな日々を過ごす。
- ② 平安時代のニヨウボウ文学。
- ③ キユウボウを訴える。
- ④ 朝ネボウをしてしまう。
- ⑤ ボウケン小説を読む。

(e) フまえ 21

- ① トウチヨウの被害にあう。
- ② 無事にトウチャクする。
- ③ 新しいビョウトウを建てる。
- ④ 社交場としてのブトウ会。
- ⑤ 環境問題についてトウロンする。

問2 空欄 ア、イ を補うのに最も適切な語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、ア 22 ある、イ 23 。

ア 22 ① たしかに ② すると ③ けだし ④ とはいえ

イ 23 ① そこで ② あたかも ③ ないしは ④ よしんば

⑤ はたして

問3 空欄 A、B を補うのに最も適切な語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は、A 24、B 25 。

A 24 ① ボーダー ② ジェンダー ③ イデオロギー ④ カテゴリー

B 25 ① ポリシー ② コンセプト ③ イニシアティブ ④ リテラシー

⑤ オルタナティブ

問4 傍線部X「旗色」、Y「恣意的」という語を、本文における意味内容をふまえて正しく用いている例文を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、X 26、Y 27。

X 旗色

26

- ① 成功を断言した以上、失敗に終わってしまったことを告白するの  
も旗色が悪い。
- ② これまでの快進撃も一転、他社との競合におけるわが社の旗色は  
悪くなった。
- ③ 部下の過失に業を煮やしている社長は、ここ最近、旗色が悪い。
- ④ 社会的弱者を標的にしたヘイトスピーチは、聞いているだけで旗  
色が悪くなる。
- ⑤ 結果的に友人を裏切ることになってしまい、旗色の悪い思いに襲  
われる。

Y 恣意的

27

- ① 商品に対する改良が恣意的なものであれば、広く普及するにちが  
いない。
- ② 気鋭の評論家による恣意的な批評を受けて、その著者はようやく  
納得できた。
- ③ 数学は、場所性や時間性に拘束されることのない恣意的な法則を  
追求する学問だ。
- ④ いつまでも旧来の考えにこだわるような恣意的な態度のままでは、  
強情のそしりをまぬかれない。
- ⑤ 君のように恣意的な意見をまくしたてるだけでは、誰の賛同も得  
られない。

問5 傍線部(1)「消極的な意味合いしかもたない」とあるが、どういうことか。最も適当なものを、

次の中から一つ選びなさい。解答番号は 28。

- ① 二一世紀の今日、保守主義については直接的に定義することが難しく、相対的に理解するしかないということ。
- ② 保守主義とリベラルは相互の関係性のなかで意味を持つものなので、「両者ともに思想的自立性は低いということ。
- ③ 保守主義は他のイデオロギーの対立軸としてしか定義できないため、それについての考察は不毛であるということ。
- ④ 現代においては、保守主義がかつて有していた意義は薄れ、ほとんど形骸化してしまっているということ。
- ⑤ 保守主義は対立する思想の相関項に過ぎないと認識され、それを自らの信条とする人々は希少であるということ。

問6 傍線部(2)「首相のウィンストン・チャーチルは、次のような言葉を口にした」とあるが、この

「ウィンストン・チャーチル」の「言葉」について筆者はどのように考えているか。最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 29。

- ① 保守主義を定義することが難しくなってしまったことにより「思想の年齢モデル」が崩壊してしまった現在では、ウィンストン・チャーチルの述べたことは、もはや格言としての説得力を有していないと言わざるを得ない。
- ② 保守やりベラルを年齢規範のモデルとして捉える観点は本質的に根拠を持たないものであることが判明した今となつては、ウィンストン・チャーチルの格言はそもそもナンセンスなものであつたと言わざるを得ない。
- ③ 「思想の年齢モデル」という観点から保守とリベラルを比較したウィンストン・チャーチルの言葉は、彼の独創によるところのものであり、彼とは異なる時代を生きる我々も、その優れた洞察力については認めねばならない。
- ④ かつては認められた保守とリベラルとをめぐる「思想の年齢モデル」が現在においては通用しなくなっている以上、ウィンストン・チャーチルの言葉は以前のような有効性を持つことはもはや難しいと言わざるを得ない。
- ⑤ 現代ではしばしば、ウィンストン・チャーチルの懸念した「若者の保守化」が指摘されるが、そうである以上我々現代人は、もう一度彼の格言に立ち返りその意義を再評価すべき時代に生きていることを認めねばならない。

問7 傍線部(3)「『進歩』という理念の後退」とあるが、これに関する説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 30。

- ① かつて人々が「進歩」を信じていた時代においては、保守主義はあくまで進歩主義を批判するための二義的な意味しかもたなかったが、現代ではその力関係は反転している。
- ② これまで「進歩」を象徴すると思われてきた様々な事象が行き詰まりを見せるなか、最先端のテクノロジーによってその袋小路から抜け出そうとする試みも多く見られる。
- ③ 保守主義の台頭により影響力を失いつつある進歩主義は、それが語る理念の抽象性を否定し、具体的メッセージを発信していくなどの自己改革を模索している。
- ④ 人類全体は後戻りすることなく前進しているという信念を皆が共有していた時代においては、それを否定するような言説などは誕生する余地もなかった。
- ⑤ 保守の対応軸としての進歩主義が急速にその説得力を失いつつある現代においては、その必然の結果として、保守主義の思想的基盤も動揺し始めている。

問8 筆者の主張に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 31。

- ① 保守主義について、我々はそれをこれまでの使用例とはいったん切り離し、その意味内容を刷新すべきである。
- ② 保守主義はもはや「大人」の思想であることをやめ、若者の専有物となりつつあることを自覚すべきである。
- ③ 保守主義という概念について、我々はそれをめぐる既存の定義を、もう一度解釈し直すべき時期に来ている。
- ④ 保守主義が成熟した思想でなくなった以上、真の意味での開かれた思想を新たに構築していく必要がある。
- ⑤ 保守主義を信条とする高齢の人のなかには若々しい人も多いが、その点にはやはり学ぶべきところもある。

### 問題Ⅲ 次の文章は、『梁塵秘抄口伝集』の一節で、後白河院が自身の過去を振り返った文章

である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

そのかみ十余歳の時より今にいたるまで、今様を好みて怠ることなし。遅々たる春の日は、枝に開け庭に散る花を見、鶯の鳴き、時鳥の語らふ声にもその心を得、蕭々たる秋夜、月をもてあそび、虫の声々にあはれをそへ、夏は暑く冬は寒きをかへりみず、四季につけて折を嫌はず、昼はAひねもすに歌ひ暮らし、夜はよすがら歌ひ明かさ(a)ぬ夜はなかりき。夜は明くれど戸・藪をあげずして、日出づるを忘れ、日高くなるを知らず。その声小止まず。おほかた夜昼を分かず、日を過ごし月を送りき。その間、人あまた集めて、舞ひ遊びて歌ふ時もありき。四五人、七八人、男女ありて、今様ばかり(b)なる時もあり、常にありしものを番において、我は夜昼あひ具して歌ひし時もあり、また我ひとり雑芸集をひろげて、四季の今様、法文、早歌にいたるまで、書きたる次第を歌ひ尽くす折もありき。(1) 声を破ること、三度なり。二度は法の如く歌ひかはして、声の出づるまで歌ひ出だしたりき。あまり責め(c)しかば、喉腫れて、湯水通ひしも術なかりしかど、構へて歌ひ出だしにき。あるいは七八、五十日、もしくは百日の歌など始めてのち、千日の歌も歌ひ通し(d)てき。昼は歌はぬ時もありしかど、夜は歌を歌ひ明かさぬ夜はなかりき。

資賢、季兼など語らひ寄せても聞き、鏡の山のおこ丸、主殿司にてありしかば、常によびて聞き、神崎のかね、女院にア候ひしかば、参りたるには申して、歌はせて聞きしを、「(2)あまりにては。時々はこれにても、いかで聞かではあらむずるぞ」とて、夜まぜにイ賜ばむとてたまひしかば、あの御方へ参る夜は、人をつけて、暁帰るを呼び、我たまはる夜は、いまだ明かきより取り籠めて、歌は(e)せて、ウ聞き習ひて歌ふ歌もありき。明け方に返しやりてもBなほ歌ひしを、かねが局、向かへなりしかば、明けてのちもなほ鼓の音の絶えぬさまに、「いつの暇にかやすむらむ」とあさみ申しき。かくの如くエ好みて、六十の春秋を過ごしにき。

久安元年八月二十二日、待賢門院亡せさせたまひにしかば、火を打ち消ちて、闇の夜に向かひたる心地して、くれ塞がりてありしほどに、五十日過ぎしほどに、崇徳院の、新院と申しし時、ひとつ所に、Cわがもとにあるべきやうに仰せられしかば、(3)あまりま近く、つつましかりしかども、好みたちたりしかば、そののちも同じやうに夜ごとに好み歌ひき。鳥羽殿にありし時、五十日ばかり歌ひ明かし、とよりて東三条にて船に乗りて、人々つどへて四十余日、日出づるほどまで夜ごとに遊びき。

(注1) 今様……当時流行した、新式の歌謡。多く七五調四句からなり、白拍子などによって歌われた。

(注2) 蕭々たる……ものさびしい。

(注3) 常にありしものを番において……常に自分のそばに控えている者を当番に編成して。

(注4) 雑芸集……今様の歌詞を集めた書物。現存しない。

(注5) 法文、早歌……法文は、今様の分類の一つ。仏教の経典などについて説いた法文について歌ったもの。早歌は、中世歌謡の一つ。法会などで歌われたもので、テンポが速い。

(注6) 法の如く……修業の方法として決められている通りに。

(注7) 術なかりしかど……どうしようもなくつらかったが。

(注8) 資賢、季兼……資賢は、源資賢。声楽家の一人で、後白河院の近臣。季兼は、藤原季兼。今様の名手、藤原敦家の孫。

(注9) 鏡の山のおこ丸……近江国の鏡山のあたりを拠点としていた遊女とされる。今様の名手。

(注10) 主殿司……宮中の清掃・灯火などをつかさどる役所の女官。

(注11) 神崎のかね……撰津国の淀川近くの水駅、神崎を拠点としていた遊女とされる。今様の名手。

(注12) 女院……天皇の生母や后、内親王などで、朝廷から「院」の称号を受け、上皇に準ずる待遇を受けた女性。ここでは(注15)の待賢門院を指す。

(注13) 夜まぜに……一晩おきに。

(注14) あさみ……驚きあきれて。

(注15) 待賢門院……鳥羽天皇の皇后、藤原璋子。崇徳天皇、後白河天皇の母。

(注16) 崇徳院……後白河院の兄。

(注17) 好みたちたりしかば……今様が好きでたまらなかつたので。

(注18) 鳥羽殿……鳥羽(京都市伏見区)にあった離宮。

(注19) とよりて……ちよつと集まって。

(注20) 東三条……東三条殿。現在の京都市中京区にあった、藤原氏の御殿。

問1 傍線部X「時鳥」の読みとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は

32。

- ① にわとり      ② あげがらす      ③ ほととぎす      ④ かげろう      ⑤ むくどり

問2 傍線部A「ひねもすに歌ひ暮らし」、B「なほ歌ひしを」、C「わがもとにあるべきやうに」のここでの意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

A 33、B 34、C 35。

A ひねもすに歌ひ暮らし 33

- ① 一日中歌って暮らし
- ② のんびりと歌って暮らし
- ③ 必死になって歌って暮らし
- ④ 一日中学んで暮らし
- ⑤ のんびりと遊んで暮らし

B なほ歌ひしを 34

- ① まだ歌っていないのに
- ② もう一度歌いたいと
- ③ 普通に歌っていたところ
- ④ まだ歌っていたところ
- ⑤ もう歌い終わっていたが

C わがもとにあるべきやうに 35

- ① 自分のようにあるべきだと
- ② 自分の好きな所に住むように
- ③ 自分をするべき仕事をするように
- ④ 本来の自分をとりもどすように
- ⑤ 自分のそばに住むように

問3 二重傍線部(a)～(e)の語の文法的説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解

答番号は 36。

- ① (a) 「ぬ」は完了の助動詞「ぬ」の終止形。
- ② (b) 「なる」は伝聞・推定の助動詞「なり」の連体形。
- ③ (c) 「しか」は過去の助動詞「き」の連体形に係助詞「か」が付いた形。
- ④ (d) 「て」は完了の助動詞「つ」の連用形。
- ⑤ (e) 「せ」は尊敬の助動詞「す」の未然形。

問4 傍線部ア～オのそれぞれの主語として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番

号は 37。

- |   |         |    |       |
|---|---------|----|-------|
| ① | ア「候ひ」   | —— | 待賢門院  |
| ② | イ「賜ばむ」  | —— | 神崎のかね |
| ③ | ウ「聞き習ひ」 | —— | 後白河院  |
| ④ | エ「好み」   | —— | 待賢門院  |
| ⑤ | オ「歌ひ」   | —— | 崇徳院   |

問5 傍線部(1)「声を破ること」とあるが、何が原因で、どうなったのか。その説明として最も適当

なもの、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 38。

- ① 今様を歌いすぎたために、声が出なくなった。
- ② 修業の方法に従わずに練習したために、喉を傷めた。
- ③ 練習を怠けていたので、声が出なくなった。
- ④ 連日の宴会で大声で騒ぎすぎたために、喉を傷めた。
- ⑤ 初心者には難しい曲を選んだので、歌いこなせなかった。

問6 傍線部(2)「あまりにては。時々はこれにても、いかで聞かではあらむずるぞ」の解釈として最

も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 39。

- ① あまりにひどい。時々ならいいが、毎日聞いていられない。
- ② あまりではないか。時々はこのように、なぜ聞いてくれないのか。
- ③ あまりではないか。時々はこちらでも、どうして聞かずにいられようか。
- ④ あまりにかわいそうだ。時々はこちらでも、何とかして聞かせてあげよう。
- ⑤ あまりではないか。時々でいいから、こちらでも聞かせなさい。

問7 傍線部(3)「あまりま近く、つましかりしかども」について、誰の、どんな気持ちを表したのか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 40。

- ① 崇徳院の、後白河院を自分の近くに住ませたいが、周囲を気にしてためらう気持ち。
- ② 後白河院の、崇徳院の近くでこれまでのように今様を毎晩歌ってもいいものか遠慮する気持ち。
- ③ 後白河院の、崇徳院の近くでこれまでのようにぜいたくな暮らしができるか不安に思う気持ち。
- ④ 崇徳院の、後白河院を近くに呼んだら、毎晩今様を歌ってうるさいのではないかと心配する気持ち。
- ⑤ 後白河院の、崇徳院の近くに住むことを待賢門院がよく思わないのではないかと心配する気持ち。

問8 本文の内容と合致しないものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 41。

- ① 十歳あまりの時から六十歳になる今まで、今様が好きで稽古を怠ることはなかった。
- ② 大勢の人々を集めて昼も夜も歌い明かしたり、また、一人でいる時は本を見ながら歌った。
- ③ 母の待賢門院のもとに参上していた今様の名手・神崎のかねを、自分の所にもよこしてくれよう頼んだ。
- ④ 神崎のかねは、一晚おきに待賢門院と後白河院のもとに参上することになった。
- ⑤ 待賢門院の死後は、今様への熱はさめ、他の遊びにのめり込むようになった。

問9 『梁塵秘抄口伝集』と同じ頃の作品を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 42。

- ① 『万葉集』
- ② 『雨月物語』
- ③ 『千載和歌集』
- ④ 『奥の細道』
- ⑤ 『日本霊異記』

## 2018年度 一般入試 前期A日程 「国語」 解答例

大問	小問	解答 番号	正解
問題 I	問 1	1	①
		2	④
		3	①
		4	⑤
		5	③
	問 2	6	④
		7	④
	問 3	8	②
		9	③
	問 4	10	⑤
		11	⑤
	問 5	12	⑤
	問 6	13	①
	問 7	14	③
	問 8	15	②
	問 9	16	④
問題 II	問 1	17	①
		18	①
		19	②
		20	⑤
		21	④
	問 2	22	④
		23	⑤
	問 3	24	②
		25	③
	問 4	26	②
		27	⑤

	問 5	28	①
	問 6	29	④
	問 7	30	⑤
	問 8	31	③
問題 Ⅲ	問 1	32	③
	問 2	33	①
		34	④
		35	⑤
	問 3	36	④
	問 4	37	③
	問 5	38	①
	問 6	39	③
	問 7	40	②
	問 8	41	⑤
	問 9	42	③

2018 年度

一般入試 中期

(2018 年 2 月 24 日実施)

「国語」

問題Ⅰ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人民主権論を打ち立てたジャン・ジャック・ルソーはフランス革命の思想的な象徴であり、政治思想に関するもののみならず、小説や自伝などさまざまなジャンルの著作で知られている。これから触れるのは『社会契約論』、人民主権の原理を突き詰めて追究した彼の主著の一つである。

旧体制下の1762年に出版されたが主に宗教上の考えが理由で発禁となり、革命後の動乱期においては(a)セイテンのように扱われた。日本では明治期に中江兆民が部分訳を『民約論』として公刊し、自由民権運動の時代精神をかたどった。

『社会契約論』はルソーが圧巻の筆力で、入り組んだ論理を(b)シツソウしながら次々と概念を生成していく、難解だが明晰な書物である。要約にはまったく向いていない。ここでは本書と直接の関係が深い内容に(c)シヨウテンを絞り、補助的な説明を加えつつ、骨子を説明していく。

ルソーは1755年の前著『人間不平等起源論』で、社会で不平等が拡大するなかで人間同士が疎外していくプロセスを描いた。そこには支配する者と、支配されるものが現れ、支配する者のなかには高慢と虚栄がはびこり、支配される者のなかには卑屈と追従が生まれる。

究極的にはそれは、少数の富者に政治的権力が集中し、多数の弱者が奴隷のような状態へと行きつく。そこでは支配する少数の富者さえも、高慢と虚栄に捕らえられた欲望の奴隷である。富者が奴隷とは何だと思うかもしれないが、立派な衣裳を着た操り人形が、欲望という名のご主人様に操られているイメージである。悲惨と悪徳に満ちた状態。『人間不平等起源論』はネガティブな著作だといつてよい。

ではそのプロセスから抜け出すことは人間に可能か。(1)『社会契約論』はその可能性を探る、よりポジティブな著作だといえる。しかし楽観的とはいえない。ア ルソーが探るのは一筋の光明である。自由な社会の設立はいかにして可能で、その運営はどのような原理に基づかねばならないのか。ここでいう自由は奴隷の反意語と考えてよい。そして奴隷はルソーがよく引き合いに出す語である。「奴隷は(d)テッサのなかですべてを失ってしまう。そこから逃れたいという意欲までも」というフレーズは特によく知られている。圧政に隷従し、卑屈と追従を続けるうちに、奴隷はその状態に飼い馴らされてしまうというわけだ。

奴隷状態は正当化できない。奴隷がその状態に飼い馴らされているのなら、それは最初の暴力に負けたことに起因しており、奴隷として服従する義務を引き受けたからではない。そして、もし飼い馴らされていないなら、いまの暴力にXやむなく従っているだけだ。暴力に支配されることと、義務を遂行することは、まったく別種の行為である。奴隷状態は権利や義務でなく、暴力が生み出したものに過ぎない。

どうすれば正当な、人間が奴隷にならない、自由にいられる社会を築けるのだろうか。(2)そのため手段が、互いを対等の立場として受け入れ合う社会契約である。それは何か。

ルソーの構想する社会契約において、人々はその分割不能な共同体へと結合し、また彼らはすべての権利を共同体に渡して一つに束ねる。これが契約行為である。

各人が契約する相手は、神様でも王様でも他人でもなくて「自分たち」、つまり自分を含む契約当事者たちが構成する共同体である。この共同体を人民という。また、束ねた権利のことを主権という。人民に主権は属するので、これを人民主権という。人間は多様だが、彼らが行う契約行為は完全に等しいゆえ、社会契約は人々のあいだで完全に対等である。ではこの共同体はいかにして運営されるのか。キーワードは一般意志である。

ルソーの議論において、人民は一般意志の指揮のもとに置かれるとされる。だがこれは誰かや何かの管理下に置かれるわけではない。

人民とは構成員たちからなる一個の分割不能な共同体であり、一人ひとりの構成員ではない。そして一般意志とは、個々の人間が自らの特殊性をいったん離れて意志を一般化したものだ。意志を一般化するのは、自己利益の追求に何が必要かをひとまず脇に置いて、自分を含む多様な人間がともに必要とするものは何かを探ろうとすることである。

それゆえ一般意志は人々を対等に扱い、人間に共通の必要を尊重し、平等性を志向する傾向を持つ。個人が特殊な「私」の次元から一般的な「公」の次元へと思考を移すという、<sup>(3)</sup> 熟議的理性の行使——それを意志の一般化と呼ぼう——を通じて自分たちで共同体を運営するのが、人民が一般意志の指揮のもとに置かれるということだ。

これを特に難しく捉える必要はない。自治には公私の区別が必要だということを、純化して表現したのだからだ。要するに、私的領域では自分のことだけを考えるのが許容されても、公的領域ではそうではないということだ。公私の領域に区別がないと、往々にして「公」の名のもとに「私」が踏みじられる。だからそれはあったほうがよい。

「熟議的理性」という言葉に一点注意しておく。英語だと熟議は deliberation (仏語だと deliberation) だが、この語は熟慮をも意味する。だから英語の deliberation を和訳するときには、熟議なのか熟慮なのか、日本語の選定に注意せねばならない。熟議だと複数の人が会話しなくてもいいが、熟慮だと一人で黙ってできるので、日本語の印象はかなり異なる。では熟議と熟慮を使い分けて内包する deliberation の本質は何かというと、思索を通じて考えを形成したり変えたりすること、その行為の前後における変化である。

熟議的理性を行使するとは、理性に尋ねて考えを形成したり変えたりすることだ。そのような行為をわざわざするのが、私から公の次元へ思考を移すということである。なぜそのようなことをせねばならないのか。

I

人間が一樣ならば自分も他人も同じようなものなので、  
I 熟議的理性を行使して、意志を一般化してまで、ともに必要とする社会基盤が何かを探る必要性は乏しい。自分がいて、他者がいて、それぞれ異なるから、各自がそのような面倒な行為をする必要があるのだ。それは自分を離れるというよりは、自分のなかに深く潜り、他者と人間としての共通点を見付け、それを尊重しようとする営みである。

理性が情動より高貴とか上位だとか言っているわけではない。理性も公的領域もそこまでの高みを欲してはいない。単に公的領域においては理性の行使が要請されるのだ。意志を一般化するとはそ

の要請を引き受けること、そのような主体としての自分を選び取ることだ。だからこの作業は言うなれば **A** の選択であり、自分を放棄するわけでも離脱するわけでもない。

**Y** しばしばなされる誤解だが、一般意志を **B** 的に捉えるのは大きな誤りである。むしろそれは多様な人間が共存する基盤、自由社会の枠組みを志向するものだからだ。一般意志は差別や偏見を許容しない。社会契約はその成り立ちから、法のもとの平等や一人一票の原則を含む、構成員間の政治的平等を重視する。これは政治的権力や政治的権威に構成員間で大きな偏りがある、**B** 的体制ではありえないことだ。

人々は社会契約により、所有権の保護や人格の尊重、そして自由の創設などを獲得する。これは「互いの認め合い」であり、それにより人々の暮らしは以前よりよきものとなる。そのために契約しようとする人間の心理の基盤は何かというと、利己心である。だが利己心といっても一通りではない。節度のあるなしで利己心の現れ方は大きく異なってくる。

社会契約をなすためには、自分のみならず他者をも尊重するという節度の心理が **(e)** 「フカケツ」である。それは利他心というより、節度のある利己心である。「自分だけを尊重しろ」や「自分だけは優遇しろ」という節度なき利己心が暴れると、契約には至れない。

ではこの節度ある利己心の、根っこの感情とはどのようなものか。それは「他者との関わりのなかで、自分は軽く扱われたくない」という尊厳の感情である。この感情が暴走しないで「他者が自分を尊重するなら、自分も同様に他者を尊重しよう」という抑制の効いた心理が生まれたとき、社会契約は可能となる。

(坂井豊貴『多数決を疑う 社会的選択理論とは何か』)

(注1) ジャン＝ジャック・ルソー……フランスの思想家(一七一二～一七七八)。

(注2) 旧体制……フランス革命以前の絶対君主制と封建的システムに基づく前近代的社会体制。

(注3) 中江兆民……日本の思想家(一八四七～一九〇一)。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 1、(b) 2、(c) 3、(d) 4、(e) 5。

(a) セイ|テン

1

- ① 恩師のキユウセイに涙する。
- ② からだをセイケツに保つ。
- ③ セイサンな事件現場。
- ④ 一国のセイスイを調べる。
- ⑤ セイイキなき改革。

(b) シッ|ソウ

2

- ① 強制的にシッコウする。
- ② 患部にシツプを貼る。
- ③ 伝統工芸品のシッキ。
- ④ シツペイや感染症への対策。
- ⑤ 部下をシツセキする。

(c) ショウ|テン

3

- ① ショウリヨに駆られる。
- ② イショウを凝らす。
- ③ ショウダン相手に会う。
- ④ 損害をホショウする。
- ⑤ リンショウ実験。

(d) テツ|サ

4

- ① サセンの憂き目にあう。
- ② 現場をフウサする。
- ③ 職歴をサシヨウする。
- ④ 事件のソウサが難航する。
- ⑤ コウサが飛んでくる。

(e) フカ|ケツ

5

- ① シンケツを注いだ作品。
- ② ラスコーのドウケツの壁画。
- ③ 努力がケツジツする。
- ④ 記憶がケツラクする。
- ⑤ 和平会談がケツレツする。

問2 空欄 、を補うのに最も適当な語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。  
解答番号は、ア 、イ 。

- ア  ① がぜん ② むしろ ③ よもや ④ むろん ⑤ なかんずく  
イ  ① ぬくぬく ② しらじら ③ さらさら ④ おずおず  
⑤ わざわざ

問3 空欄 、を補うのに最も適当な語句を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、空欄 には同じ語句が入る。解答番号は、A 、B 。

- A  ① ナショナルリテイ ② エスニシテイ ③ アイデンティテイ  
④ ノスタルジー ⑤ マイノリティ  
B  ① 全体主義 ② 教条主義 ③ 虚無主義 ④ 相対主義  
⑤ 個人主義

問4 傍線部X「やむなく」、Y「しばしば」と同義の語句を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、X 、Y 。

- X やむなく  ① やるせなく ② 頑是なく ③ 性懲りもなく ④ 仕方なく ⑤ あてどなく

- Y しばしば  ① 常に ② 頻繁に ③ 時折 ④ ごくまれに ⑤ 場合により

問5 傍線部(1)「『社会契約論』はその可能性を探る、よりポジティブな著作だといえる」とあるが、「その可能性」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 12。

- ① 社会に不平等が広がるなかで弱者たちの失われた人間の尊厳を、強者たちから奪還することの可能性。
- ② 格差社会を背景に、支配者も被支配者ともに主体性を喪失していくような状況を超克することの可能性。
- ③ 少数の富者のみが権力を独占するような社会を破壊し、弱者にとっての理想郷を構築することの可能性。
- ④ 政治的な権力を持たない弱者たちが人民主権の原理に開眼し、欲望という主人から解放されることの可能性。
- ⑤ 高慢と虚栄がはびこり、卑屈と追従、悲惨と憎悪に満ちた奴隷制社会から、人々が逃げ出すことの可能性。

問6 傍線部(2)「そのための手段が、互いを対等の立場として受け入れ合う社会契約である」に関する説明として不適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 13。

- ① 共同体は、自己を含む多様な人間があまねく必要とするものを思索することで抽象化された一般意志において運営されねばならない。
- ② 共同体の運営においては公私の区別が必須であり、私的領域では許されるかもしれない利己的行為も、公的領域では認めることはできない。
- ③ 社会契約において人々が契約する相手は、自己を包含する契約主体としての各人が構成する共同体、すなわち「自分たち」自身である。
- ④ 共同体の構成員は多様であるが、彼らが行う契約行為が完全に等しいものである以上、そこに成立する社会契約は、人々の対等性を前提とする。
- ⑤ 人々は社会契約において、各人が有する権利のすべてを共同体に譲渡することになり、結果として契約行為における主体性を放棄することになる。

問7 傍線部(3)「熟議的理性の行使」に関する説明として不適切なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 14。

- ① 熟議的理性の行使とは、理性を駆使して私から公の次元へと思考を移すこと、すなわち意志の一般化のことである。
- ② 英語の「deliberation」は、個人的省察を意味することもあるので、日本語の「熟議」とは意味がずれることがある。
- ③ 複数の人間を前提とする「熟議」と個人でも可能な「熟慮」は、ともに、思索を経ての考えの錬磨という点で共通する。
- ④ 熟議的理性の行使により他者と自己との間に共通点を見いだすことは、すなわち自己を客体化する行為に等しい。
- ⑤ 自己の深奥に潜む自己と他者との相同性を見いだしたうえでそれを尊重することを可能にするのが、熟議的理性である。

問8 本文中の空欄 I に当てはまる内容として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 15。

- ① それはそうするのが理性の必然であるからだ
- ② それは人間が多様だからだ
- ③ それは社会契約が絶対の理念であるからだ
- ④ それは人民が匿名性を志向するからだ
- ⑤ それは意志が強固だからだ

問9 本文の内容として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 16。

- ① 自己についての尊敬の感情を持つことができている場合、人は自己犠牲的ともいえる利他心を発揮することが可能となり、それにより社会契約はより一層の有効性を増すことになる。
- ② 共同体を構成する個々人が利己心を棄てることができないう場合、所有権の保護や人格の尊重、そして自由の創設などを可能とするための社会契約をなすことは難しい。
- ③ 節度ある利己心と節度なき利己心との葛藤を経て止揚されたより高次の利己心が、他者を尊重しようという抑制の効いた心理を生むことになり、そこにおいて社会契約は成立する。
- ④ 他者が自己を尊重するという条件のもとに自己も他者を尊重しようという意志が生まれるが、そのような心理を基盤とする節度ある利己心がなければ、社会契約は不可能である。
- ⑤ 社会契約がなされれば、共同体の構成員は互いに認め合ったことになり、それにより人々の暮らしはよりよきものになっていくというのは、ルソーの人民主権論が幻想する虚構である。

問題Ⅱ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

明治政府は近代化政策を展開した。ハードの面ではある程度それは成功したが、ソフトの面には手もつけられなかった。ソフトの面とは人間関係である。親子関係から主従関係にいたるまで、欧米化することは出来なかったのである。そこでそれらの問題については旧来のまま残してハードの面の近代化だけを進めざるを得なかったのである。その結果旧来の被差別部落などの差別は残り、家庭内での差別も生き残った。また市民や国民の中にも差別の意識は生き残ったのである。個人という訳語は出来ても、その実質は欧米のそれとは比ぶべくもなかった。こうして日本の社会は<sup>(1)</sup>二つのシステムが共存するダブルスタンダードの社会となったのであり、その状態は今も続いている。

ではこの「世間」はどのような人間関係をもっていたのだろうか。そこにはまず<sup>(2)</sup>贈与・互酬の関係が貫かれていた。贈与・互酬とは、(中略)マルセル・モースが提唱した人間関係の概念であるが、モースはニュージーランドのマオリ族やアメリカ先住民の慣行からこの概念を抽出しており、その基礎には<sup>(a)</sup>ジジュツツがあったとしている。

しかし彼のジジュツツ概念には問題点があり、そのまま採用するわけにはいかない。モース以後の研究者たちは例えば<sup>(主2)</sup>レヴィーストロースなどは欧米人の中にも贈与・互酬の慣行の痕跡があるといっている。この点についてはここでは問題として残しておきたい。いずれにしても「世間」の中には自分が行った行為に対して相手から何らかの返礼があることが期待されており、その期待は事実上義務化している。例えばお中元やお歳暮、結婚の祝いや<sup>(b)</sup>コウデンなどである。

重要なのはその際の人間は人格としてそれらのやりとりをしているのではないという点である。贈与・互酬関係における人間とはその人が置かれている場を示している存在であって、人格ではないのである。こうした互酬関係と時間意識によって日本の世間はヨーロッパのような公共的な関係にはならず、私的な関係が常にとわりついて世間を<sup>(c)</sup>ギジ公共性の世界としているのである。

贈与の場合それは受け手の置かれている地位に送られるのであって、その地位から離れば贈り物がこなくなっても仕方がないのである。贈り物の価値に変動がある場合も受け手の地位に対する送りの評価が変動している場合なのであり、ア人格ではなく、場の変化に過ぎないのである。しかし「世間」における贈答は現世を越えている場合もあり、あの世へ行った人に対する贈与も行われている。

日本における人間関係を考える場合、この贈与・互酬慣行を無視することは出来ない。何らかの手助けをして貰ったときなどにもお礼としてもものなどを送ることがある。その場合にも返礼はしなければならぬが、場合によっては礼状ですますことも出来る。日本で人間関係を良く保ちたいと思えば、この慣行をうまく利用することが必要となる。イ場に対する贈り物であっても、自分の人格に貰ったものとして丁寧な礼状を書き、場合によっては返礼をするのである。これは贈与・互酬慣行を<sup>X</sup>逆手にとった手であって、それによって相手の敬意を受ける場合もある。しかしその場合も相手次第であって、相手がどうしようもない俗物や企業である場合にはその手は通用しない。

次に問題になるのはAである。これは説明の必要はないかに見える。年長者に敬意を払うと

いう意味であるが、ときには年長者を馬鹿にする場合もある。現実の日本では A は消えつつあり、若年者が優位に立ちつつある。

次に時間意識の問題がある。「世間」の中には共通の時間意識が流れている。日本人の挨拶に「今後ともよろしく願います」という挨拶があるが、これは日本特有のものであって、欧米にはそれに当たる挨拶はない。なぜなら日本人は「世間」という共通の時間の中で生きているので、初対面の人でも何時かまた会う機会があると思っ**っ**ている。しかし欧米の人は一人一人の時間を生きているので、そのような共通の時間意識はない。

これと関連して日本では「先日は有難うございました」という挨拶がしばしば交わされる。しかし同じ挨拶は欧米にはないのである。欧米ではそのときのお礼はそのときにするものであって、(d) サカノボノボってお礼をいう習慣はない。(3) 日本の「今後ともよろしく」という挨拶がお礼の先払いであるとすると、「先日は有難う」という挨拶は過去の行為に対するお礼の後払いということになる。

「世間」は広い意味で日本の公共性の役割を果たしてきたが、西欧のように市民を主体とする公共性ではなく、人格ではなく、それぞれの場をもっている個人の集合体として全体を維持するためのものである。公共性という言葉は公として日本では大きな家という意味であり、最終的には天皇に帰着する性格をもっている。そこに西欧との大きな違いがある。現在でも公共性という場合、官を意味する場合が多い。「世間」は市民の公共性とはなっていないのである。

このように「世間」の中で生きている日本人と「世間」をもたない欧米人との間にはこれだけの違いがある。このことを抜きにして欧米の文化と日本の文化を語ることは出来ないのである。日本で社会という言葉がツサイエティの訳語として生まれたのが明治一〇年であり、個人という言葉がインデイヴィデュアルの訳語として生まれたのが明治一七年であるから、それ以前には個人という概念も社会という概念もなかったのである。

個人という概念がなかったことは明治以前には日本には自画像というジャンルがなかったことにも示されている。明治以後、東京美術学校（現・東京芸術大学）が西洋画科の卒業生に自画像を描かせることを定めてから、自画像が描かれはじめたのである。それ以前の日本人は「世間」という集団の中で生きており、そこに価値が置かれていたから、自己を描く必要性がなかったのである。明治以前の自画像のほとんどは雪舟、白隠、良寛等であり、その多くが禅宗の僧侶のものである。

日本では今でも自画像の中に傑作といえる作品は少ない。個人が自己を発揮できる環境が必ずしも十分ではないからである。それと比べれば欧米では古くから十分に自己を発揮した作品が生まれている。アルブレヒト・デューラーは一三歳にしてすでに自画像を描いているし、レンブラントは生涯に数多くの自画像を描いている。またメキシコのフリーダ・カーロはきわめて特異な自画像を残している。それらに B しうるものはまだ日本にはない。

このことは自画像だけの問題ではない。私たちの生き方が「世間」によって大きな部分で縛られていることを示しているのである。私たちは子供の頃から自己主張をしないように教育されてきた。出来るだけ(e)ケンキョにに生きることが優れた生き方とされていた。まわりの人の中で自分を主張することは良くないこととされ、周囲の人の中で目立たない存在になるように心がけてきた。したがって

自画像を描く動機がそもそもなかったのである。

一人の人間としての生き方だけでなく、政治家も「世間」の中で生きていくから「世間」の掟おきてに従って行動している。派閥はその典型であり、政治家たちは自分が属する派閥の中から大臣がたくさん出て、総理が出ること<sup>Y</sup>を最終的な目的としている。将来の日本のあり方などは言葉の上だけの議論に過ぎず、現実にはほとんど意識にのぼっていない。「世間」には時間が特異な形でしか流れていないからである。

(阿部謹也『近代化と世間——私が見たヨーロッパと日本』出題の都合上、一部中略した箇所がある)

(注1) マルセル・モース……フランスの社会学者、民族学者(一八七二～一九五〇)。

(注2) レヴィ・ストロース……フランスの文化人類学者(一九〇八～二〇〇九)。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 17、(b) 18、(c) 19、(d) 20、(e) 21。

(a) ジュジュツ

17

- ① ジュシヤの孔子の言葉。
- ② 王権シンジュ説を否定する。
- ③ 祖父のキジュを祝う。
- ④ 杉のジュレイを調べる。
- ⑤ ジュモンを唱える。

(b) コウデン

18

- ① バラのホウコウが漂う。
- ② 魂のコウカンを描く小説。
- ③ 天子がシヨコウを招集する。
- ④ コウイン矢のごとし。
- ⑤ ショウコウ状態を保つ。

(c) ギジ

19

- ① 親のジアイに育まれる。
- ② 来客にシャジを述べる。
- ③ ペットのキユウジを忘れる。
- ④ 強いジリヨクで引つ張られる。
- ⑤ やり口のコクジした犯罪。

(d) サカノボって

20

- ① ソゾウを制作する。
- ② その宗派のカイソ。
- ③ 船が川をソコウする。
- ④ ソボウな人間。
- ⑤ 敵兵をソゲキする。

(e) ケンキョ

21

- ① 兄弟で部屋をケンヨウする。
- ② 賞賛に対してケンソンする。
- ③ 犯罪のケンギが晴れる。
- ④ 最大のケンアン事項が片付く。
- ⑤ ケンアクな空気が漂う。

問2 空欄 ア、イ を補うのに最も適当な語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。  
 解答番号は、ア 22、イ 23。

ア 22 ① あくまでも ② まったく ③ たとえ ④ かりにも

イ 23 ⑤ まるで  
 ① つぶさに ② 切に ③ いたずらに ④ 単に ⑤ 如実に

問3 空欄 A、B を補うのに最も適当な語句を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。  
 い。ただし、空欄 A には同じ語句が入る。解答番号は、A 24、B 25。

A 24 ① 蛍雪の功 ② 蟪蛄の斧 ③ 他山の石 ④ 多生の縁

B 25 ⑤ 長幼の序  
 ① 腹背 ② 比肩 ③ 巧緻 ④ 追従 ⑤ 腐心

問4 傍線部X「逆手にとった」、Y「言葉の上だけの議論」の本文における意味として最も適当なもの、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、X 26、Y 27。

X 逆手にとった 26

- ① 都合のいいようにねじまげた  
 ② 早とちりして誤解した  
 ③ 自分にとって不利なことを逆にうまく活用した  
 ④ 無視して相手をだました  
 ⑤ 文字通りの意味のみで解釈した

Y 言葉の上だけの議論

- 27 ① 詭弁きべん  
 ② 二律背反  
 ③ ドグマ  
 ④ イデオロギー  
 ⑤ 空言

問5 傍線部(1)「二つのシステムが共存するダブルスタンダードの社会となった」とあるが、どういふことか。最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 28。

- ① 明治以降の日本社会が、西欧の人権主義を取り入れていったにもかかわらず、旧来からの差別は根強く生き残ってしまったということ。
- ② 明治以降の日本社会が、欧米を範としながらも封建的旧習を一掃することができず、自家撞どう着的ちやくジレンマに陥ってしまったということ。
- ③ 明治以降の日本社会がハード面での近代化を強行した結果、それに対する反発が生じ、世論が二重拘束状態に陥ってしまったということ。
- ④ 明治以降の日本社会が西欧思想を受容した結果、「個人」をめぐる既存の日本語の概念が、矛盾した意味を包含するようになったということ。
- ⑤ 明治以降の日本社会が、徹底した近代化政策を実現したにもかかわらず、旧来の人間関係を打破することはできなかったということ。

問6 傍線部(2)「贈与・互酬の関係」に関する説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 29。

- ① 日本では、互酬という慣行を前提として、西欧的公共性と類比される世間なるものが構築された。
- ② 贈与という慣行において受け手は人格を捨象され、地位を象徴する抽象的な記号へと還元される。
- ③ 受け手にとってみれば返礼は必須の行為であり、ここから世間形成に向けた互酬の慣行が開始される。
- ④ 贈与する物品に変動が生じるのは、贈与の主体の地位に何らかの変動が起こった場合である。
- ⑤ 贈与が現世を越える場合のみ、世間と対置される存在として受け手の人格が想起されることになる。

問7

傍線部(3)「日本の『今後ともよろしく』という挨拶がお礼の先払いである」とすると、『先日是有難う』という挨拶は過去の行為に対するお礼の後払いということになる」とあるが、「今後ともよろしく(＝前者)」および「先日は有難う(＝後者)」という二つの「挨拶」についての筆者の考えとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 30。

- ① 前者は過去を振り返ることで発される挨拶であるが、後者は未来という時間を相手と共有しうる可能性を前提として発される挨拶である。このように、日本語における挨拶には相反する二つのベクトルが存在するが、これは日本人における時間意識の観念と深いかわりのある特徴であるといえる。
- ② 前者はこれから先に広がる時を他者と共有しうることを前提とした挨拶であるが、後者はこれまで過ぎ去った時間を他者と共有してきたという事実を前提とする挨拶である。このような挨拶は、公共性に重きを置く社会においては普遍的に認められる慣行であるといえる。
- ③ 前者は来たるべき時制における「世間」の共有を前提とした挨拶であるが、後者は来し方における「世間」の共有を前提とする挨拶である。この一見すると背反的な意識は、その実、ヨーロッパ的な価値観の浸透に対する無意識的な反発が顕在化した現象であるといえることができる。
- ④ 前者は未来における時の共有を前提とした挨拶であるが、後者は過去における時の共有を前提とした挨拶である。いずれにしても日本人は他者と時を共有する感覚を有しているといえるが、これは日本人が、自分たちは「世間」という共通の時間の中で生きていると考えているためである。
- ⑤ 前者は将来を相手と共有しうる可能性を前提とした挨拶であるが、後者は過ぎ去った日々を相手と共有していたことを前提とする挨拶である。しかしながら両者ともに、現在を起点として成り立つ視座であり、その点にこそ、日本人にとっての「世間」というものの本質を認めることができる。

問8 本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 31。

- ① レヴィ・ストロースが唱えた概念には問題点が認められるため、彼の考えを採用する可能性は皆無である。
- ② 日本の「世間」は私的要素が混在している公共性の空間であり、この点で西欧の公共性とは異なる概念である。
- ③ 日本における「公」は天皇に帰着する概念であり、「官」を基盤とする西欧のそれとは、大きな違いが認められる。
- ④ 明治の初期において、それまでの日本にあった個人や社会という概念に対応し、それを意味する外来語が輸入された。
- ⑤ 自己主張を控えた生き方を美德とする考えの誕生は、自画像というジャンルが存在しなかったことに起因する。

## 2018年度 一般入試 中期 「国語」 解答例

大問	小問	解答番号	正解
問題 I	問 1	1	⑤
		2	④
		3	①
		4	②
		5	④
	問 2	6	②
		7	⑤
	問 3	8	③
		9	①
	問 4	10	④
		11	②
	問 5	12	②
	問 6	13	⑤
	問 7	14	④
	問 8	15	②
	問 9	16	④
問題 II	問 1	17	⑤
		18	①
		19	⑤
		20	③
		21	②
	問 2	22	①
		23	④
	問 3	24	⑤
		25	②
	問 4	26	③
		27	⑤
	問 5	28	②
	問 6	29	②
	問 7	30	④
	問 8	31	②